

県立博物館企画展案内

「マンガ文化」の源流

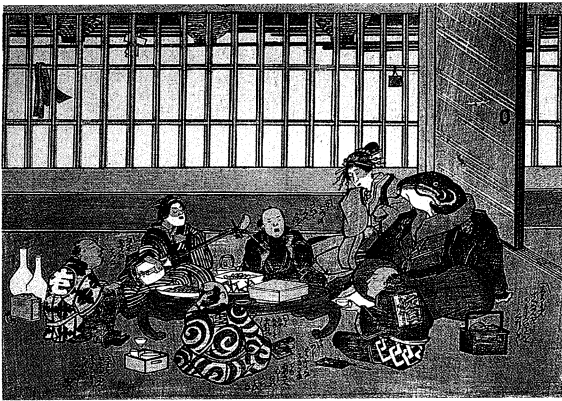
―風刺と遊び心―

今日、「マンガ文化」という言葉が日常的によく使われています。わが国では、「漫画」は江戸時代に滑稽に描かれた「大津絵」・「鳥羽絵」とよばれるものなどに始まります。日本における漫画の誕生は、世界的にみても早く、アジアでは最初のものといえます。そして現在では、漫画からアニメーションへとというように、新しい文化が形成されてきています。

わが国の漫画は、江戸時代の浮世絵にみられるように、木版印刷技術の普及により町人文化のひとつとして、大衆へ浸透してゆきま



▲寄世絵「み可けは……」
歌川國芳画



▲鯨絵「鯨の宴会」

した。それらには、その当時の社会・世相を滑稽に風刺したものが多くあります。安政二年（一八六五）の江戸大地震後の社会を、鯨を擬人化して描いた「鯨絵」などは、その一例です。また、幕末から明治にかけては、わが国が大きく変貌した時代でした。漫画の分



▲「耶麻郡に於ける官憲の弾圧」
「福島奇聞、自由之夜譚」より



野にも西洋の近代手法がとり入れられてきます。それは江戸時代の浮世絵に基盤を置いたポンチ絵の出現でした。こうした絵の多くは、開国から近代国家へと移り変わる世相を、滑稽に風刺したものでした。なかでも自由民権運動を風刺したものが、当時の新聞などに多くのせられています。

第一回の企画展は、「マンガ文化の源流」と題し、江戸時代の漫画の起源から、幕末から明治にかけての風刺画、そして風刺画から近代漫画の誕生へと、漫画の歴史をたどりながら日本人の風刺・遊び心を紹介します。